

ポスドク報告書

2021/12

荻田譲

2年ぶりの帰国を果たして猫にまみれながらこの報告書を書いています。去年はコロナのせいで帰省を断念しました。今年は二週間の隔離がありますがワクチンを打っているということもあり、帰国を強行しました。実家の猫は19歳、14歳、12歳 x2 でもうかなりの高齢です。時間が経ってしまったのもう自分のことを覚えていないかなと心配していましたが、匂いを一通り嗅ぎ終わった後は甘えたり撫でられにくるようになりました。特に上の子はかなりの高齢で、毎日投薬と点滴をしています。去年は容態がかなり悪化し、もう会えない覚悟をしていたので、生きているのみならず覚えていてくれたことは非常に感慨深いです。



かわいくページ数を稼いでくれるうちの初ちゃん

研究に関しては、10月いっぱい MITでのポスドクを終えました。詳しくは書きませんが、端的に言ってポスドク先の研究室は自分に合わなかったのが早々に切り上げることにしました。ビザ持ちの留学生はSTEM系 PhD 修了後、3年間 PhD 時代と同分野で就労する猶予期間が与えられます。この仕組みのデメリットは別分野で就職したり研究することができない、3年以内に次のビザやグリーンカード取得に必要な業績を積み上げることができないとビザ切れで強制帰国になることなどです。なので、例えば1年調

理学校に通って新しい分野を開拓してみる、などという自由がありません。この不自由さと時間制限がストレスに感じられ、市民権/グリーンカード持ちの人たちがとてもうらやましく見えました。自分の場合、残り1年半で引用数や論文数が爆発的に増える見込みがなかったのが早急に就職へ舵を切ったという次第です。ポスドクをコロナ禍でスタートしたせいもあるのかもしれませんが、PhDをするにしろポスドクをするにしろ、働き場所を決める際は実地訪問をして研究室の雰囲気や設備を確認することをお勧めします。ポスドク時代はいくつかのプロジェクトに携わりましたが、一番初めのものが論文文化まで漕ぎ着けました。データ自体は去年にほぼ出揃っているのですが、なぜか未だ投稿されないのが首を長くして待とうと思います。また、大学院時代 *Scripps* で手伝ったビタミンD合成プロジェクトの論文と特許がようやく出ました。論文の方はまだアーカイブに出すだけですが、無事に受理されることを祈っています。

ポスドク後はノヴァルティスという製薬会社に就職しました。振り返ってみると、PhD (*The Scripps Research Institute*)、ポスドク (*Massachusetts Institute of Technology*)、就職 (*Novartis Institute for BioMedical Research*) と *Institute* 大好きマンのような人生を送っていました。就活自体は PhD 時代のボスと各所製薬会社で活躍している大学院時代の友人の推薦のおかげで非常にスムーズでした。かかった時間は、就職するか悩み始めてからオファーにサインするまでわずか1ヶ月程度です。元ボスや友人の助けに感謝しつつも、完全に他人の七光で就職してしまい恥ずかしいような気持ちもあります。ノヴァルティスはスイス資本の会社で、スイスで半年近く暮らせるサバティカル制度もあるらしいのでいつか利用してみたいです。会社でのポジションはついこの間スタートし、その後即1カ月近い休暇をとってしまっているのが会社のことについてはまだあまり詳しくありません。今のところ、いい意味で化学のウェイトが軽い印象を受けました。当然のことですが創薬において一番重要なのは効く薬を開発することで、活性化化合物の構造が複雑であることは全く必要ありません。今までは難しい化合物を作ってなんぼの合成化学が研究の90%以上を占めていたのに対し、ノヴァルティスでは *Chemistry meeting* でも話すのは基本的にメドケムや生物の話です。生物に重きを置いた会社なので、新しい作用機構を持った薬を積極的に開発し、それを可能にするアッセイ系を自前で構築できるなど、学術的にも意義のある創薬研究ができる環境が整っています。とはいえ、自分は今まで王道すぎる合成化学を研究してきたせいで生物は全くの素人です。生物を3回勉強しようとして3回挫折しているほど苦手ですが、今回は必要に駆られているので今度こそ板に着くことを願っています。

おそらくこれで船井の報告書も最後です。PhD からポスドクまで7年近くになります。この期間色々なことがありました。留学当初想定していた着地地点よりも割と離れた場所に着地した気がしますが、無事就職もでき生きているので大団圓だと思います。長きにわたって人的、経済的支援をいただいた船井財団に感謝します。